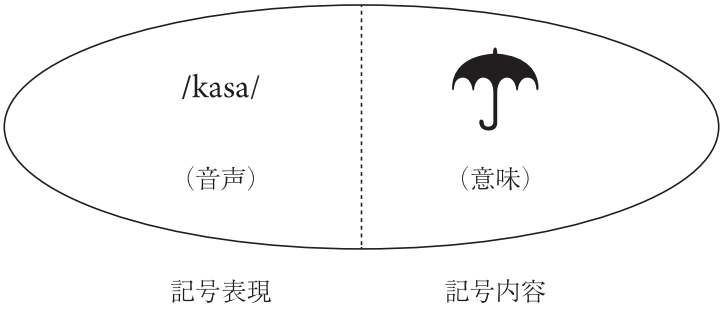
このソシュールの考えを、「傘」という例で説明しましょう。ソシュールによれば、傘という言葉は、「/kasa/ という音声と「☂」という意味が合体した記号」ということになります。

図１　「傘」という記号



記号表現（シニフィアン／能記）はあくまで手段ですから、音声や文字以外のものであってもいいわけです。点字やジェスチャー、標識やサインでもいいことになります。

たとえば、私たちがよく使う「OKサイン」もジェスチャーという身振りや手振りを使った言語活動であると言えます。

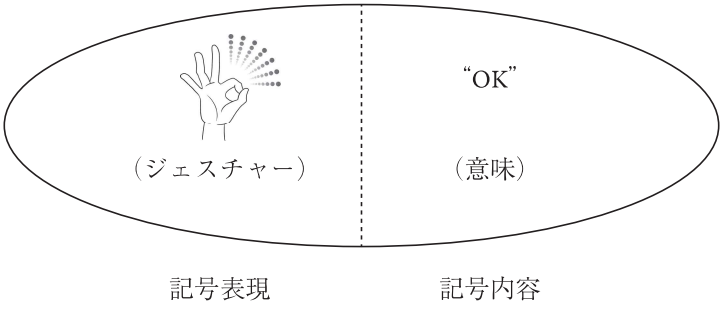



図２　「OK」という記号